

新大人研レポートXV いま高齢社会は“新しい大人社会”へと大きく変化 その⑧

「介護不安高齢者から、新しい大人は“介護予防エルダー”へ」

- 団塊含む60代は89.9%が介護予防に積極的。
- もし要介護になったら近所の人と助け合いたい。

- ・ 介護予防に日頃取り組んでいるのは60代男女の約9割。40-60代でも約8割が実践。
- ・ 万一要介護となった場合、地域の人たちと助け合いたいと考える共助意識は50代女性が高い。
- ・ 介護負担軽減の鍵は、外部サービスの合理的な活用と、周囲の人との情報交換。

いま40-60代生活者が「日本の高齢社会を大きく転換」しようとしています。会社は退職しても社会はリタイアしない人たちが増えています。「博報堂 新しい大人文化研究所」は、これらの世代を総称して“新しい大人世代”と名付け、調査研究を行っています。2012年度は『絶滅!?する中高年ー“新しい大人世代の登場”』と題して連続レポートを発表してきました。このたび全国40-60代男女に対する調査を実施し、分析を行った結果、**高齢社会が“新しい大人社会”へと転換する「兆し」**が見えてきました。新しい大人世代、とりわけ、リタイアした60代の団塊世代が、今ようやく動き出し、日本の高齢社会そのものが、生活者の力で大きく転換しようとしています。調査結果から読み取れる変化の兆しを、生活のさまざまな角度からご報告します。

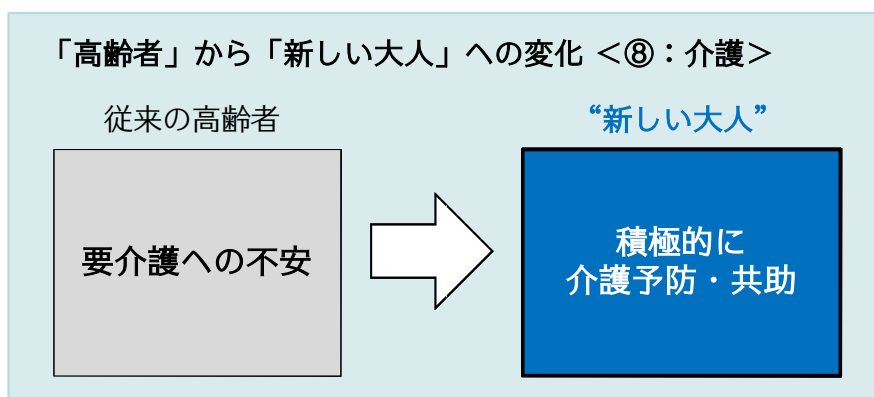
その⑧は、「介護」です。

分析結果から、新しい大人世代の「介護」に対する意識が明らかになりました。従来の高齢者意識には「将来は要介護になるのかもしれない」という不安がありました。それが今、積極的に介護予防しようという意識が芽生えた「介護予防エルダー」へと変化しています。

今後、高齢化が進むにつれ要介護者は増加傾向にあります。介護負担は、精神的・時間的・金銭的・肉体的にも重いものです。特に50-60代は、親の介護を行ってきた・行っている世代であり、「毎日の生活を充実させ、家族の負担がないように健康でいたい」という意識が顕著なようです。

万一要介護になったときには、家族だけでなく外部の「共助」にも期待しています。東日本大震災以降、自助・公助だけに頼らず、地域のネットワークを利用し、お互いを補完し合う共助の大切さが見直されています。介護に関しても、横の繋がりをセーフティネットのひとつとして、地域や近隣の人々が互いに協力し合うことや、外部の支援サービスを合理的に利用することで負担を軽減したいと考える傾向が明らかになりました。また、その他の軽減策として、ケアマネ・ヘルパーとのコミュニケーションによる情報入手・情報共有などが挙げられました。

40-60代が概ね、その傾向にあるため、これが一過性のものでなく、今後、少なくとも20年は続き、高齢社会全体を変えて行くと考えられます。



<調査結果>

■60代男女では、89.9%が既に介護予防策を実行。
新しい大人世代全体(40-60代)でも、82.1%が介護予防に取り組んでいる。年代を追って上昇する傾向。

■60代男女「要介護にならないための日頃の心掛け」で高スコアとなった具体的な取り組みは、①適度な運動 ②定期健診 ③散歩などで歩くことを心掛ける。いずれの項目も女性が高く、年代が上がるにつれて上昇する傾向。

【表1】要介護にならないための日頃心掛けていること/実行していること

	サンプル数	うなことをしている 意識して頭を使うよ 新聞や本を読むなど	人とよく話すように している	散歩など、出歩くこ とを心がけている	適度な運動で体を動 かすようにしている	手先や指を動かすよ うなことをするよう にしている	食べるようにしてい 好き嫌いなく何でも る。	病気になるように 、注意している。	健康情報に気をつけ TVや新聞で医療や	定期健康診断を受け ている	かかりつけの医師に 相談している	たりしている。 友人仲間と語らった	その他	特に何もしていない	計 具体的取り組み有り
全体	2700	38.7	26.1	40.9	42.1	33.7	36.3	41.9	26.6	47.9	12.4	21.4	0.6	17.9	82.1
男性	1350	34.3	16.7	38.3	38.6	27.9	34.7	35.7	19.8	47.3	13.3	13.8	0.2	22.3	77.7
女性	1350	43.1	35.6	43.6	45.7	39.6	37.9	48.0	33.3	48.5	11.5	29.0	1.0	13.6	86.4
40代	900	27.4	21.9	28.1	30.7	22.6	29.0	34.3	20.9	38.0	6.6	15.0	0.1	25.6	74.4
50代	900	37.7	23.8	39.1	38.3	33.4	34.3	39.7	23.7	49.6	11.3	18.7	0.8	18.1	81.9
60代	900	51.0	32.8	55.6	57.4	45.2	45.6	51.6	35.1	56.1	19.3	30.6	1.0	10.1	89.9
男性40代	450	23.8	14.0	27.1	30.0	18.0	26.9	29.8	16.0	38.0	6.4	9.3	-	30.9	69.1
男性50代	450	32.7	14.0	35.8	33.8	25.8	31.6	30.4	17.8	48.4	11.3	11.8	0.2	22.7	77.3
男性60代	450	46.4	22.0	52.0	52.0	39.8	45.6	46.9	25.6	55.3	22.2	20.2	0.4	13.3	86.7
女性40代	450	31.1	29.8	29.1	31.3	27.1	31.1	38.9	25.8	38.0	6.7	20.7	0.2	20.2	79.8
女性50代	450	42.7	33.6	42.4	42.9	41.1	37.1	48.9	29.6	50.7	11.3	25.6	1.3	13.6	86.4
女性60代	450	55.6	43.6	59.1	62.9	50.7	45.6	56.2	44.7	56.9	16.4	40.9	1.6	6.9	93.1

■万一要介護となった場合、地域の人たちと助け合いたいと考える共助意識は50代女性が最も高く54.2%。

【表2】自分が要介護状態になった場合、近所の人との助け合い意向

	サンプル数	とてもそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない	そう思う計	そう思わない計
全体	2700	8.3	38.2	42.3	8.3	2.9	46.5	11.3
男性	1350	7.3	34.8	45.5	9.0	3.4	42.1	12.4
女性	1350	9.3	41.6	39.0	7.6	2.4	50.9	10.1
40代	900	6.2	37.2	46.7	7.0	2.9	43.4	9.9
50代	900	9.0	38.7	38.6	10.8	3.0	47.7	13.8
60代	900	9.7	38.7	41.6	7.2	2.9	48.3	10.1
男性40代	450	5.1	35.1	49.6	7.6	2.7	40.2	10.2
男性50代	450	7.6	33.6	43.6	12.0	3.3	41.1	15.3
男性60代	450	9.1	35.8	43.3	7.6	4.2	44.9	11.8
女性40代	450	7.3	39.3	43.8	6.4	3.1	46.7	9.6
女性50代	450	10.4	43.8	33.6	9.6	2.7	54.2	12.2
女性60代	450	10.2	41.6	39.8	6.9	1.6	51.8	8.4

<ご参考>

■介護負担軽減策で高スコアとなったのは、

- ①ケアマネ・ヘルパーさんとのコミュニケーションをよくする
- ②ショートステイやデイサービスを利用する
- ③兄弟や家族・親戚で分担する ④特別養護老人ホームなどを活用する
- ⑤介護付き有料老人ホームを活用する
- ⑥介護される人とのコミュニケーションをよくする

大きな傾向としては2つ。周囲の人とのコミュニケーションの頻度を増やすことで様々な支援情報の交換を行うことと、外部サービスを合理的に利用することで、軽減しようと考えている。

【表3】介護の負担軽減策（要介護者有ベース）

	サンプル数	兄弟や家族・親戚で分担する	気晴らしをする	介護の手を少し抜く	ショートステイやデイサービス、ケアマネやヘルパーさんとのコミュニケーションをよくする	ケアマネやヘルパーさんとのコミュニケーションをよくする	多くとるようになる	自分と同じように介護をする者同士で声を掛けあう	知人や友人と情報交換をおこなう	介護に関する情報収集	集をおこなう	介護付き有料老人ホームを活用する	特別養護老人ホームなどを活用する	その他
全体	533	21.0	3.0	6.0	24.6	28.5	14.8	3.4	8.3	9.0	14.8	15.4	1.7	
男性	252	16.7	1.6	2.8	27.4	28.6	14.3	1.2	2.8	11.5	14.7	19.8	1.2	
女性	281	24.9	4.3	8.9	22.1	28.5	15.3	5.3	13.2	6.8	14.9	11.4	2.1	
40代	102	8.8	1.0	5.9	22.5	31.4	6.9	4.9	6.9	9.8	11.8	12.7	1.0	
50代	200	21.0	3.0	7.5	24.0	23.5	13.5	2.5	7.5	6.5	13.0	14.5	1.0	
60代	231	26.4	3.9	4.8	26.0	31.6	19.5	3.5	9.5	10.8	17.7	17.3	2.6	
男性40代	38	7.9	-	7.9	23.7	36.8	5.3	5.3	7.9	15.8	18.4	15.8	-	
男性50代	97	17.5	1.0	1.0	26.8	21.6	13.4	1.0	2.1	6.2	13.4	19.6	1.0	
男性60代	117	18.8	2.6	2.6	29.1	31.6	17.9	-	1.7	14.5	14.5	21.4	1.7	
女性40代	64	9.4	1.6	4.7	21.9	28.1	7.8	4.7	6.3	6.3	7.8	10.9	1.6	
女性50代	103	24.3	4.9	13.6	21.4	25.2	13.6	3.9	12.6	6.8	12.6	9.7	1.0	
女性60代	114	34.2	5.3	7.0	22.8	31.6	21.1	7.0	17.5	7.0	21.1	13.2	3.5	

■介護の五大負担（肉体的負担・精神的負担・時間的拘束・金銭的負担・情報の不足）のなかで最も高いのは「精神的負担」。

これは14年前に当研究所が行った調査結果と変わらない。大きく違うのは、介護保険制度スタート以来14年の間に、様々な介護関連情報が浸透し、介護サービス・施設が充実してきたために、その負担を軽減させるための方策、すなわち、上記のような「コミュニケーションの改善」「施設の有効利用」、さらには「共助意識」がすすんできたものとみられる。また自分自身の「介護予防意識」もそのなかで培われ高まってきたとみられる。

【表4】介護の負担感（要介護者有ベース）

	サンプル数	肉体的負担	精神的負担	時間的負担	金銭的負担	情報の不足
全体	533	47.1	67.4	58.5	41.7	38.3
男性	252	47.2	67.9	58.7	47.6	37.7
女性	281	47.0	66.9	58.4	36.3	38.8
40代	102	57.8	69.6	61.8	54.9	47.1
50代	200	45.5	65.0	55.0	34.5	37.0
60代	231	43.7	68.4	60.2	42.0	35.5
男性40代	38	52.6	65.8	63.2	55.3	47.4
男性50代	97	47.4	67.0	56.7	41.2	37.1
男性60代	117	45.3	69.2	59.0	50.4	35.0
女性40代	64	60.9	71.9	60.9	54.7	46.9
女性50代	103	43.7	63.1	53.4	28.2	36.9
女性60代	114	42.1	67.5	61.4	33.3	36.0

<調査概要>

■表1、表2、表3、表4

調査主体：博報堂 エルダナーナレッジ開発 新しい大人文化研究所

調査対象：40～60代男女

調査主要：インターネット調査

調査エリア：首都圏（1都3県）＋中小都市（首都圏および政令指定都市、岩手県・宮城県・福島県を除く） ※首都圏以外の政令指定都市、札幌市、仙台市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市

調査：サンプル数：2700名、実査：2012年12月

※上記の条件のもと、調査を実施しています。

博報堂 エルダナーレッジ開発 新しい大人文化研究所 過去のレポート一覧

※過去のレポートは、下記URLにてご覧いただけます。

<http://www.h-hope.net/> (新しい大人文化研究所WEBサイト)

<http://www.hakuhodo.co.jp/> (博報堂WEBサイト → 「ニュースリリース」 → 「調査レポート」)

- ・HOPEレポートⅠ 元気で意欲的な「ニューエルダー」の登場 (2001.5.21)
- ・HOPEレポートⅡ エルダー世代から見て公共サービスや高齢者への工夫はどの程度進んでいるのか (広告分野含め) (2001.7.10)
- ・HOPEレポートⅢ エルダー世代が現在楽しみにしている付き合い・コミュニケーション (2001.8.21)
- ・HOPEレポートⅣ 65歳以上の「親」世代が「子」「孫」世代とどうコミュニケーションしているのか (3世代コミュニケーション) (2001.9.7)
- ・HOPEレポートⅤ エルダー層のお金に対する意識調査 (2001.11.9)
- ・HOPEレポートⅥ いま、ラジオがエルダーを動かす (2001.11.29)
- ・HOPEレポートⅦ エルダー世代の旅は「夫婦二人きりで、贅沢に!」 (2002.3.26)
- ・HOPEレポートⅧ 50代男女に聞いた「言われてうれしい言葉」～[50代調査速報] (2002.7.12)
- ・HOPEレポートⅨ 65歳以上のパソコン使用率:2年間で2.7倍、携帯電話使用率は2倍 (2002.10.21)
- ・HOPEレポートⅩ エルダーの3分の2はお金に苦労しない～「50代・60代のお金に関する意識」(2003.3.11)
- ・HOPEレポート増刊 「新しい大人文化」創造のヒント(公式)を発表します。開けひま。(2003.10.8)
- ・HOPEレポートⅩⅠ 夫だけが信じる「ウチは大丈夫」～「50代夫婦のパートナー評価」(2003.12.12)
- ・HOPEレポートⅩⅡ 3食きっちり、エルダーは食べることが楽しみな「食生活優等生」「エルダーの食生活調査」(2004.2.19)
- ・HOPEレポートⅩⅢ 「いまは健康」だが、「今後の健康」・「病気のお金」に強い不安。(2004.4.22)
- ・HOPEレポートⅩⅣ 3世代とも「他世代と、もっとコミュニケーション」したい。(2004.7.14)
- ・HOPEレポートⅩⅤ 団塊リサーチ(1) 「団塊夫婦の定年意識」に関する調査 (2004.9.8)
- ・HOPEレポートⅩⅥ 団塊リサーチ(2) 「団塊世代のエンタテインメント消費調査」(2005.4.15)
- ・HOPEレポートⅩⅦ 団塊リサーチ(3) 「団塊世代のファッション実態調査」(2005.7.20)
- ・HOPEレポートⅩⅧ HOPEサーベイ2005 最新データ「エルダーの情報縁とタッチポイント」(2005.9.8)
- ・HOPEレポートⅩⅨ 「団塊世代～定年(引退)後のライフスタイル調査」(2005.10.15)
- ・HOPEレポートⅩⅩ 「団塊男性、定年後に目指す『男のロマン』調査」(2006.5.10)
- ・HOPEレポートⅩⅩⅠ HOPEサーベイ2006 「団塊世代 人生60年の棚卸し」(2006.11.24)
- ・HOPEレポートⅩⅩⅡ 「団塊世代 60歳以降の人生設計」(2007.2.20)
- ・HOPEレポートⅩⅩⅢ 2007年団塊リタイヤ開始(1) 「団塊世代 退職金の使い方」(2007.4.26)
- ・HOPEレポートⅩⅩⅣ 2007年団塊リタイヤ開始(2) 「団塊世代 今後の生活と暮らし方」(2007.6.26)
- ・HOPEレポートⅩⅩⅤ 2007年団塊リタイヤ開始(3) 「夫婦の関係」(2007.7.24)
- ・HOPEレポートⅩⅩⅥ “絶滅!?する中高年” ジーンズフィフティ・インフルエンサーの登場 (2009.2.5)
- ・HOPEレポートⅩⅩⅦ 団塊夫婦調査(1) 「夫婦はやはり“すれ違い”!?」(2009.4.9)
- ・HOPEレポートⅩⅩⅧ 団塊夫婦調査(2) 「夫婦関係改善の手立て」(2009.4.20)
- ・新大人研レポートⅠ “新しい大人世代 “の人生のとらえ方(2012.1.19)
- ・新大人研レポートⅡ “新しい大人世代 “の言われて嬉しい言葉(2012.2.1)
- ・新大人研レポートⅢ “新しい大人世代 “のコミュニケーション(2012.4.16)
- ・新大人研レポートⅣ “新しい大人世代 “の健康意識(2012.5.31)
- ・新大人研レポートⅤ “新しい大人世代 “のお金に関する意識(2012.8.27)
- ・新大人研レポートⅥ “新しい大人世代 “の社会意識(2012.9.3)
- ・新大人研レポートⅦ “新しい大人世代 “の夫婦関係(2013.2.26)
- ・新大人研レポートⅧ いま高齢社会は”新しい大人社会 “へと大きく変化 その①おカネ(2013.07.31)
- ・新大人研レポートⅨ いま高齢社会は”新しい大人社会 “へと大きく変化 その②食(2013.9.5)
- ・新大人研レポートⅩ いま高齢社会は”新しい大人社会 “へと大きく変化 その③メディア(2013.11.6)
- ・新大人研レポートⅩⅠ いま高齢社会は”新しい大人社会 “へと大きく変化 その④社会性(2013.11.28)
- ・新大人研レポートⅩⅡ いま高齢社会は”新しい大人社会 “へと大きく変化 その⑤クルマ(2013.12.25)
- ・新大人研レポートⅩⅢ いま高齢社会は”新しい大人社会 “へと大きく変化 その⑥住(2014.2.4)
- ・新大人研レポートⅩⅣ いま高齢社会は”新しい大人社会 “へと大きく変化 その⑦旅(2014.2.19)

「博報堂 エルダナーレッジ開発 新しい大人文化研究所」(新大人研)について

当研究所は、「博報堂エルダービジネス推進室」(2000年設立)を前身とし、2011年2月に設立された、40～60代生活者の意識・行動を研究する専門組織です。従来の中高年齢層の間で一般的であった意識やライフスタイルとは異なる、新しい40～60代が誕生しています。当研究所では、年を重ねるごとに前向きな意識を持つ、この新しい中高年齢層生活者を「新しい大人」と名づけ、少子高齢化社会にプラスのインパクトを与える重要な存在として調査・研究および企業向けコンサルティング業務を行っています。今年度は『新大人研レポート ～いま高齢社会は“新しい大人社会”へと大きく変化～』を連続シリーズで発表していく予定です。

所長：阪本節郎(さかもと・せつお)



1975年早稲田大学商学部卒業。(株)博報堂入社。食品・トイレタリー・自動車・OA・金融等のプロモーション企画実務を経て、プロモーション数量管理モデル・対流通プログラム等の研究開発に従事。その後、商品開発および統合的な広告プロモーション展開実務に携わりつつ、企業のソーシャルマーケティングの開発を理論と実践の両面から推進。地域社会・NPO・環境・高齢者・教育サイトなどのテーマに取組む。2000年エルダービジネス推進室開設を推進し、2011年新しい大人文化研究所を設立、現在に至る。

著書 「巨大市場『エルダー』の誕生」(プレジデント社2003年7月、共著)、「団塊サードウェーブ」(弘文堂2006年1月)。「団塊の楽園」(弘文堂2007年2月、共著)。